

本年、創立から133年を迎える東洋紡株式会社は、渋沢栄一から贈られた「順理則裕」を企業理念としています。同社の起点となる大阪紡績会社、三重紡績会社は、いずれも栄一が創立、育成に尽力した会社です。日用品となる綿糸、綿布の輸入量の多さを憂慮した栄一は、最新の紡績技術、機械を導入、合弁会社として近代的で大規模な紡績事業を推進し、成功させました。この新しい産業は次第に成長を遂げ、綿糸、綿布は日本の主要な輸出品となっていくます。本展では、東洋紡株式会社創立期を中心に、紡績業に対する栄一の思いと会社育成に対する関わりを紹介します。

【東洋紡創立発起人栄一】
大阪紡績株式会社 1900年
裏表（部分）

関連シンポジウム 主催：東洋紡株式会社・公益財団法人渋沢栄一記念財団

第1回 渋沢栄一と大阪～関西企業との関わりを中心に～

日 時：4月16日(木) 18時30分～20時45分
会 場：綿業会館(大阪市中央区備後町2-5-8)
定 員：200名(事前申込・先着順)
参加費：無料
後 援：大阪商工会議所
司 会：宮本又郎(大阪大学名誉教授)
パネリスト：津村準二(東洋紡株式会社相談役)
佐藤茂雄(大阪商工会議所会頭)
阿部武司(国士大学政経学部教授)
老川慶喜(立教大学経済学部教授)

申込/問合先：渋沢史料館「シンポジウム係」
A、Bいずれかの方法でお申込み下さい。

第2回 渋沢栄一と東洋紡

日 時：4月18日(土) 13時30分～16時30分
会 場：渋沢史料館(東京都北区西ヶ原2-16-1)
定 員：40名(事前申込・先着順)
参加費：無料(要入館料)
司 会：阿部武司(国士大学政経学部教授)
パネリスト：宮本又郎(大阪大学名誉教授)
村上義幸(東洋紡株式会社史編集室)
平野恭平(神戸大学大学院経営学研究科准教授)
大田康博(徳山大学経済学部教授)

A) 渋沢史料館ウェブサイト内企画展情報ページの申込みフォーム
B) 往復はがきにて(1)参加希望回(2)郵便番号(3)住所(4)氏名(ふりがな)
(5)電話番号をご記入の上、「シンポジウム係」まで、1枚につき、2名まで応募可。
2名の場合は、それぞれの氏名を必ず明記のこと。



渋沢栄一 (1840-1931)

幕末にパリ万博幕府使節の随員として渡欧。明治政府に出仕後、第一国立銀行など多くの企業を創立・育成、社会公共事業に関与し、日本の近代経済社会の基盤を築く。大阪紡績、三重紡績を創立、原料となるインド綿輸入の道を拓くなど、日本の紡績業を主力産業へと成長させた。大阪紡績、三重紡績、両社合併後の東洋紡績で相談役等。



山辺丈夫 (1851-1920)

渡英し経済学を学ぶも、日本の紡績業発展を企図して大規模な紡績会社設立を計画する渋沢栄一の依頼で機械工学を修め、現地の紡績工場で技術や制度を習得。大阪紡績会社開発に向けて特に技術面で尽力、開業後は工務支配人として同社を支えた。同社3代目の社長、三重紡績との合併で成った東洋紡績の初代社長。



伊藤彦七 (1852-1924)

政府転換の「2000種紡績」の払下げを受けた父・九世伝七らと、三重紡績所の操業を開始するも不振。善後策を相談した渋沢栄一の支援を受けて三重紡績会社を創立し、同社を牽引し続けた。また、学卒者を費用し、大阪紡績との合併で成った東洋紡績を支える人材を育てた。東洋紡績2代社長。

次回の展示 収蔵品展 2015年6月20日(土)～9月6日(日)

公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
Shibusawa Memorial Museum

〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1
Tel 03-3910-0005
<http://www.shibusawa.or.jp>

飛鳥山 博物館 <http://www.asukayama.jp>

紙の博物館 2015年3月14日(土)～5月31日(日)
企画展「さくら～壬子で楽しむ花見～」

北区飛鳥山博物館 2015年3月14日(土)～5月6日(水・休)
春期企画展「梨本宮紀絵はがきコレクション」
一日仏絵はがきに描かれた近代の表象―

